

電気通信大学「政治学B」配布レジュメ

水曜5限（16：15～17：45） A201教室 講師：米山忠寛

後期第12回：2024年 1月10日（水） 対面授業 実施

「選挙政党」

[事務連絡：今後の講義日程]

2月 7日（水）夕方： レポート型試験・試験問題出題WEB掲示

2月 8日（水）21時：答案提出締切：1日間

2月12日（月）21時：遅延の場合・第二次答案提出締切：5日間

<時事問題・コラム>

（前回の復習）◎日本の政官関係の変化。議員の影響力向上。国士型官僚などは絶滅。

◎選挙政党の考え方「選挙で棄権するのは悪いこと？」（＝投票・棄権の分岐点のモデル）

（前回の続き）～～ ①. コロンビア・モデル（社会学モデル）

～～ 1940年のアメリカ・オハイオ州エリー郡での調査。

人々がどこに投票するのかは、様々な要素で元々決まっているのではないか？

年齢・学歴・職業・宗教・人種・階層・所属団体・地域・都市化 など

（条件次第で政党支持はだいたい固まっていて、選挙ではその通りに投票。）

→→ただこれだと、選挙になっても有権者は何も考えていないということになる。

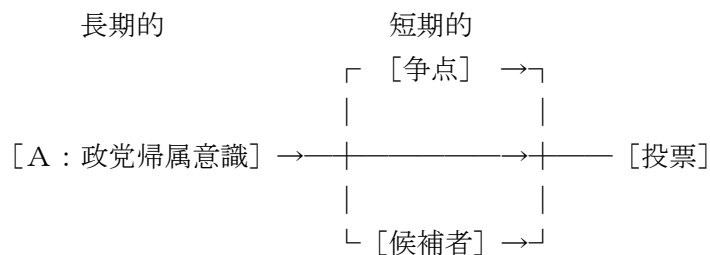
（それは民主主義として健全な姿なの？ 投票はするけど政策も選挙の争点についても理解していない。〇〇党支持だから、というだけ。）

Aの影響は政党帰属意識として長期的には存在することは明らか。

でも、これだけだと有権者は選挙になっても何も考えていないということになってしまう可能性がある。政権交代が起こることもあるじゃないか。

短期的な要素も入れて考えよう！という方向へ。

②. ミシガン・モデル（心理学モデル） （1956年ミシガン大学のグループ）



中段：(コロンビア・モデル) の元々の政党支持そのまま投票。

上段：争点も意識して投票。 下段：候補者のイメージで投票。

- ・基本となるA(〇〇党を支持している)に加えて、短期的に、「政策が違うから今回だけは他の党に投票しよう」「他の党の候補者の方が優れているから他の党の候補者に投票しよう」と考えているから選挙による変化するのだろう、というモデル。(言われてみれば当たり前?)

(・どれが「本来あるべき」ルートなのかで議論がある。毎回の争点で選ぶべき?)

(候補者で選ぶ → 「タレント候補などになびくのはけしからん」?)

(争点で → 「本来は政策で選ぶべき！」という発想から。)

(・だが有権者は争点(税制・安全保障・福祉等)を理解しきれていない方が普通。)

○これは日本でも良く言われて聞き飽きているかもしれない二つのフレーズと同じ。

→ 候補者の「政策」を聞いて、良く研究して投票しよう。

(「所属政党の政策」「候補者個人の主張」「話題の争点への意見」など。)

→ 候補者の「人柄」を見て投票しよう。

(良い人・能力のある人。加えて「汚職をしない」「約束を守る」など。)

・日本でも百年程前の普選(男子普通選挙)実施の吉野作造の頃から言っている。

○でも、そもそも「政党帰属意識」ってそんなに強いのか?(皆さんには実感がないか)

アメリカでも日本でもかつてはそうだった。(「我が家は代々共和党支持」など)

先祖代々の職業で人の移動もないと上記①コロンビア・モデルが固定化される。

(アメリカ・イギリスでは 都市＝民主党・労働党 地方＝共和党・保守党)

・南北戦争の時は南部＝民主党だったが現在は南部＝共和党。

(日本でも自民党の地盤の地域・民主党の地盤の地域、などがあるが偶に集団でひっくり返る。岩手県は小沢一郎氏の王国(自民から反自民に)、など。)

○現在はその傾向は弱まっている。「政党帰属意識」が弱まり「無党派層」の出現。

- ・以前は無党派層というのは「政治に関心を持たない、政策の知識などもない」人々だと見なされていた。(つまりは不勉強だから政治に参加しないんだ、と。)
- ・コメントカードにもたまに意見のある「選挙に行かない人はいけない！」というのたぶん同じ様な判断か。

→しかし現在は無党派層と一括りにはできないと考えられてきている。

「政治的無関心層」(無関心：つまりは不勉強)だけではなく、

「政党拒否層」「脱政党層」などもあると指摘されている。(つまり政治に関心を持ち、政策を理解はしているけれども一つの政党への帰属意識が弱い人々)

- ・政党の側が有権者の希望に応えた選択肢を提示できていないということ。
また毎回の選挙でゼロから考える人が急増したとも言える。良くも悪くも何も

- 考えずに投票所に行くという人々は減少傾向。(争点・関心がある時だけ、など)
- ・これはデモクラシーとして良いことなのか悪いことなのか、判断は難しい。

○背景の一つとしてあるのは「脱物質的価値観」の普及。

- ・物質的（お金や利益など）な利益を最優先にしない価値観。「もう生活に満足してきており、道路ができるより環境保護の方が大事」といった考えの人々。
- ・かつての様に「鉄道を引いてくれる」「橋を架けてくれる」からといった基準で投票する人は顕著に減ってきている。

○無党派層と「争点投票」

- ・また無党派層についての考え方の発展として、投票への不参加である棄権などについても、「争点を重視する」時には参加して、「重視しない」時には投票しない、という意味では合理性を持っているとも言える。
- ・「無党派層＝争点がある時は参加、ない時は棄権」とすると（投票はしなくても）ちゃんと考えて選挙に参加して影響を与えているとも言える。

○アメリカは素朴に民主主義を信じる国。(アメリカのデモクラシーは正しい！！、と)
実はミシガン・モデルの調査結果は、その根本を揺るがしてしまう可能性があった。
調査の結果は → 争点の内容を理解して重視して投票している人は多くない。
(例えば各党の政策について理解せずに、勘違いしたままで投票していることも。)

何？ アメリカでは皆が政策などあまり考えずに投票した結果で決まっているの？
アメリカの政治はそれでいいの？ テキトーに決まっているの？（嘲笑）

→ それではまずい！！ 言い訳を考える（＝別の説明の仕方を考える）

反論・言い訳（新たな研究分析）：

- ・自分が興味を持つ政策についてはちゃんと知識を持っているから良いんだ！
- ・ヴェトナム戦争への賛否や公民権運動（黒人差別問題）などの大きな問題についてはみんなちゃんと争点を意識しているから良いんだ！ など

○「争点投票」→「業績投票」：毎回の1回ごとの投票についての「争点投票」ではなく、何回も続く投票の中の1回と考えて、「業績投票」と考えれば良い。

※「争点投票」・細かい争点を意識して投票している有権者は多くはない。

毎回の選挙で争点を意識して理解しているかという点と疑わしい。

※「業績投票」・でもこれまでの政権や政党の全体的な業績への評価はしている。

- ・成果を挙げた政権を評価して投票。
- ・不祥事を起こした政党には投票しない、など。

→→こう考えると有権者はバカではなく、ちゃんと合理性を持って考えて投票して

いるのだ、と結論を出しても問題ないだろうということになる。
(結果的にこれは最初のコロンビア・モデルと似てきている面がある。先祖返りとも言えるか。これまでの長期的な業績を見てきたからこそ、現在の政党帰属意識は形成されているのだと言うこともできる。)

○更に複雑に見ると「戦略投票」として行動しているのかも？ と考えるモデルも。
自分の1票をより有効になるように活かす様に工夫しよう、と考えるはず。

※バンドワゴン効果（勝ち馬に乗る）

- ・途中まで迷っていても、途中から勝ちそうな側に転じて恩を売る。
アメリカ大統領選では長い選挙戦の中で徐々に上位の候補に政治資金・政治献金が集中していく。負ける候補者に献金しても意味がないから。
- ・政策的には好きだけど当選できなさそうな候補に投票して自分の一票が無駄になるのは嫌。→当選可能性のある候補の中から選ぶ。

※アンダードッグ効果（判官贔屓）

- ・迷っている時に、候補者の一人が（僅差で）負けそうだと知ると、投票したくなってくる（自分の一票で逆転できるかも、と期待する）。
（←逆に優勢と聞くと、応援しなくてもどうせ勝てると思い投票しなくなる。）

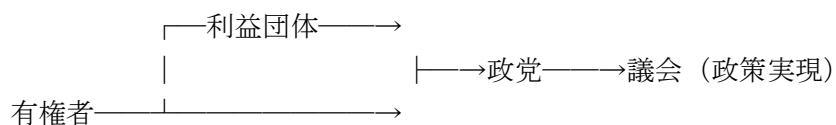
※バッファープレイヤー（バランスを取る。与野党均衡を望む思考。）

- ・与党が衆議院ではとても勝ったから、参院選では野党を勝たせよう。
選挙区と比例代表で二票あるから与党と野党に一票ずつ入れよう。など。

→○有権者は細かい政策や争点についてはわかっていないかもしれない。だけど、長期的に見ていくともしかしたらちゃんと考えて戦略的に投票をしているのかもしれない。という考え方も出て来て多様な側面が検討されている。

「選挙・政党」（利益団体） （ここまでは浮動票の話。ここからは組織票の話。）

○この講義のテーマとして、選挙で有権者の意向を汲み取るための2つの存在。
「政党」そして「利益団体」について。どうやって意見を反映させるか。（「変換型議会」の場合では、どのようにそれを政策に反映させるか、という問題にもなる。）



利益団体が、

政策の陳情、政治献金、政策提言、票集め、選挙運動員のボランティアでの提供、政治家・官僚への働きかけ、などなど。

(※政治家が業界の利益のために働いてくれる様に利益団体が「圧力団体」となって議員に自分達の利益になる様に法律の内容を変えさせる圧力を掛ける。「利益団体」について「圧力団体」という表現を用いることもある。)

- ・利益団体の構成員は共通の利害関係を持ち、政策の実現の為に行動する。
実現しないようであれば他の政党の支持に変化することもあり得る。
(T P P 反対のために、一部農協は自民党候補を推薦せずに共産党推薦なども)
- ・ただ利益団体は自分達の利益を主張していく中で、国民の一部だけの利益を代弁してしまうことになる。(しかしそれは仕方がないこと。声高に主張しないと、聞いてもらえない。)

◎利益団体の存在は政党と並んで議会制民主主義の中では非常に重要。

(「圧力団体」とも表現され、「業界団体」と内容が重なる部分も多い。)

・・・国家と国民の間をつなぐ役割。

<質問カード・コメントカードへの応答>

Q 「

A 「

[告知：試験の実施形式について ★重要]

後期の成績評価についてですが、ガイダンスでも説明したように「レポート試験」の形式で行います。文献を調べる形式でのレポートではなく、論述形式の試験問題を試験会場ではなく自宅で解答してレポート試験としてオンラインで提出するというものです。学生の皆さんにとっては試験会場での試験よりは楽になるものと思います。事前に周知期間を十分にとります。詳細については後日説明します。

(出題されてから勉強しなさいといったことでは対応しきれない可能性があるので事前に試験勉強はしておきましょうという点では試験勉強はそのまま重要です。)

試験： 出題 試験会場（60分間）での解答・提出

レポート形式の持ち帰り試験：

出題 自宅で解答（24時間以内の提出など） オンラインで提出
遅延提出の場合などは5日間・120時間以内など。評価は劣後する。
